

## 2012年 ILAC/IAF リオデジャネイロ年次大会報告

2012.10.30 認定センター

2012年の国際試験所認定協力機構（ILAC）及び国際認定機関フォーラム（IAF）の合同年次大会が、10月16日から26日にかけてブラジル国リオデジャネイロ市 Windsor Barra ホテルで開催され、両機構の総会をはじめ50近い委員会・WG・セミナーが開催された。昨年、タイ国バンコク市で開催が予定されていたが、洪水で中止となり、2年ぶりの年次大会である。

この会議では、各認定機関（以下 AB）、各地域認定機関協力組織及び ISO, UNIDO 等の関連国際機関ばかりでなく多くの適合性評価機関（CAB：認証機関、試験機関等）も利害関係会員等として参加している。

日本からの参加は、IAJapan、JAB, VLAC, JIPDEC 及び JASC の各認定機関、試験機関連合組織など20名弱で、会議参加全体では約400名であった。

今回の主な結果は以下のとおり。

### 1. ILAC 関係

- ① **会員数：** 77 正会員 AB / 65 カ国・経済地域（MRA 署名数と同じ）、17 準会員 / 29 カ国・経済地域、20 関連機関会員 / 23 カ国・経済地域、5 地域協力機関、25 利害関係機関
- ② **主な課題：** 今回の最大の議題は、検査機関の認定について MRA を拡張することであり評価を受けた3地域（APLAC, EA, IAAC）の MRA/MLA が認められ、傘下の AB、またそれ以外の地域からの AB で評価の済んだもの合わせて計39 AB が認められて署名し、この分野の MRA が発効した。日本からは、JAB が参加している。

（その他課題）

- 投票規則： 1国1票だけでなく、会員投票を選択できる方法を検討中。
  - 技能試験諮問グループ（PTCG）が当初の役割を果たしたので解散し、技術委員会（AIC）傘下の WG となる。（PTWG/AIC）。同 WG 主査には現グループ議長が就く予定。
  - 標準物質生産者（RMP）認定の認定基準は、ISO/IEC Guide 34（標準物質生産者の要求事項）単独とすることが決議され、過去の同決議決定を破棄し、関係文書（R6 文書）を変更することが決議された。なお、認定拡大に係る条件としてガイダンス等文書を必須とする旨の決議事項の破棄は決定されていない。
  - 異常事態が起きた場合の管理、及び AB の競争的行動の自粛についてのガイドを検討することとなった。（AIC）
- ③ **選挙：** 郵便投票などで変更があったのは、次の委員長。
    - マーケティング・渉外委員会（MCC）： Mr. John Murthy (UKAS 英)

- 合同途上国支援委員会 (JDSC) : Ms. Liliane Somma (OUA ウルグアイ)
  - 地域協力外代表 : Mr. Etty Feller (IRAC イスラエル)
- ④ 予算 : 予備費が多い (96%) 点についてこれを年会費合計の 1/2~3/4 に減らす検討をする。

## 2. IAF 関係(主に製品認証分野関連)

- ① 会員数 : 66 AB (うち、MLA 参加は 55 AB)、17 関係協会、4 地域協力、4 オブザーバー
- IAJapan は、昨年の大会が流れたため、IAF には 2011 年 12 月に郵便で署名を交換し加盟済みではあるが、今回の大会の署名式で加盟が紹介され署名書 (写) が手交された。
- ② 主な課題 : IAF の今回の大きな議論は、移行期間の設定であった。規制で広く利用される ISO/IEC 17065 が大きな話題の一つであった。日本のように翻訳の必要な AB は長目の移行期間を要望しているが、定期的な管理を指向する AB や規制当局の要望を背景に検査周期を短めにした AB もあり、僅差の決議で一般的移行期間を 2 年とする (※) こととなった。
- ISO/IEC 17065 (製品認証機関) : 規格発行後 (以下同様) 3 年 (~2015 年 9 月 15 日)、GD5 は 3 年間は維持。(ISO/IEC Guide65 による認定が 3 年残るため。)
  - ISO/IEC 17024 (要員認証機関) : 3 年
  - ISO/IEC 27006 (ISMS 認証) : 18 ヶ月 (ISO/IEC 17021 の移行期間に合わせたもの。)
  - ISO/IEC TS 17021-2 (環境 MS の認証審査に関わる要員の力量) : 2 年 (ISO/IEC 文書のうち、IS (International Standards) のみならず、TS (Technical Specifications)) も MLA で要求事項文書になることとなり、同様な動きに注意が必要)
  - (※) ISO/IEC 国際規格に改正があった場合、原則その移行期間は 2 年とし、それ以外の期間とする場合には IAF 総会の決議を必要とする。 など
- ③ 選挙 : 郵便投票などで変更があったのは、次の委員長。
- 技術委員会 : Mr. Ekanit Romyanon (NSC タイ)
  - マーケティング委員会 (CMC) : Mr. John Murthy (UKAS 英)
  - ユーザー諮問委員会 (UAC) : Mr. Martin Stadler (BD) (Board メンバーにも選出)
- ④ 予算 : 2014 年までの 3 年間に増額して予算のバランスを図ること、会議費 (途上国支援) で 100 千ドル増。
- ⑤ 組織 : 唯一の加盟認定機関のみの集まりである MLA グループを MLA 委員会に統合したことにより、認定機関間で検討すべき課題を検討する場を失ったため、認定機関協力委 (Accreditation Body Coordination Committee) 設置準備を開始することとなった。次回韓国ソウル会合で同委非公式会合を開催予定。

### 3. 共通(合同総会関係)

- ① IAF/ILAC A1 及び A2 文書の附属書 (Annex 1 (申請書) ,Annex 2 (確認用報告様式)) を本体から分離し、それぞれ ILAC、IAF のウェブイントラで管理する方向が確認された。
- ② IAF/ILAC A5 文書については、その構成を見直し、Sector Specific な内容 (たとえば、FSMS、ISMS 等) は A5 文書本体から切り離して本体にはリンク情報のみを掲載し、切り離された情報は、該当する組織 (IAF、ILAC のいずれか) で承認するプロセスとする基本方針が確認され、今後、再構成案が提示されることとなった。
- ③ 単一 AB が試験機関も認証機関も扱う場合に、ILAC と IAF が合同で評価する場合があります、そのための評価書式を両機関の共通規程である A3 文書で整備することが前回会合で決定しており、この A3 への移行に伴い A2 文書から当該様式 (Annex5) を削除することについて、書面投票ではなく、今次会合の決議事項として決定した。なお、Annex5 が導入される A3 文書改正案は 11 月に投票開始予定。
- ④ 2013 年次大会の開催地は韓国ソウル、2014 年はタイ国バンコクが予定されている。



【写真】2012 年 ILAC/IAF 合同総会 (リオデジャネイロ)